

令和5年度 東京都立第三商業高等学校（全日制課程）学校経営報告

1 令和5年度の取組と自己評価

（1）教育活動への取組と自己評価

① 学校運営

募集対策として、都立高校の商業教育における教育活動内容を中学生や中学校教員に広く普及させるために、新たな取り組みとして、塾訪問やマナー講座を実施し目標どおりに実現した。4月に新入生と在校生全員に受検塾についてアンケートを実施し、全150校の塾訪問を計画した。住所リストを作成し、学校案内を5月に郵送した。7月から8月にかけて管理職や教員が合計167校（新規開拓を含む）の塾を訪問した。年度初めに募集対策についての活動内容を教員に周知した結果、募集対策に対して機運が高まり、目標訪問数達成につなげた。また、今年度は昨年よりもさらに出前授業の数を39校に増やし、商業教員内容をPRした。組織的に区内や区外の中学校に出向き、2学期までに面接対策マナー講座を講演し、専門高校の内容紹介や本校の教育活動紹介を行った。中学生のみならず、中学3年生の保護者も対象にして受講させる中学校もあり、中学校からは大好評を得た。その結果、入選中進対倍率は1.29倍、推薦応募倍率1.63倍、入選1次応募倍率1.42倍と近來まれにみる高倍率となった。推薦入試では各面接グループにおいて80%の生徒が『出前授業がきっかけとなり、本校を希望した』と回答している。その中で過去において本校の入学生がいない中学校も含め、今年度の入学者選抜で各中学校の複数名の中学生が受検し、合格することとなった。これは普及活動の成果である。また今年度はホームページを270回以上更新し、ツイッターYouTubeを130回以上発信し、本校の教育情報を提供した。こちらも多くの視聴者が閲覧しており、昨年度の閲覧数を今年度はさらに上回った。

今後の課題はさらに、1校でも多く講座依頼を受諾することであり多くの中学校に出向くことである。令和6年になってから3月からすでに出前授業・説明会の案内を発信している。そしてまた来年度の新たな取り組みとしてはまた全校生徒にアンケートを実施して塾訪問を実施し、塾の先生を対象とした説明会を計画する。今年度以上に商業教育をさらに普及することを目指す。

職員会議では、今年度 Teams を活用したオンライン会議を実施し、ペーパーレスに取り組んだ結果、会議としての効率化を図ることができた。職員室の自席でのオンライン企画調整会議も1学期に実施した。会議全体の時間短縮もできている。しかしながら、会議室内の通信環境が3学期に低下してしまい、オンラインが不通となることが度々発生した。通信環境を整えることが今後の課題である。

企画調整会議では主幹教諭や分掌主任を中心とした組織的な学校運営を推進し、分掌組織のマネジメトサイクル（PDCA）を取り入れた効果的な進行管理を行った。

また、学校運営連絡協議会を5月11月2月と3回対面で開催でき、情報交換ができ、外部協議委員から好評であった。

経営指標、執務ガイドライン、OJT診断基準を有効活用し、各職層としての取組内容の確認とともに若手教職員等の人材育成を図った。

② 学習指導

1・2年生が「観点別評価」となり、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、ペア学習、グループ学習、発表、マインドマップの作成などを実践し、一斉授業だけの従来型の授業を改善・工夫した授業を実現しつつ授業手法の確立と評価へつなげるための課題を洗い出し、相互に情報収集し、指導の充実を図った。また相互に授業参観をしながら授業力を向上させた。その中で、オンライン授業の手法やオンラインを活用した学びを各教職員が推進したことは成果である。オンライン学習デーも円滑に進行した。特に若手教員が自ら積極的に、専門教科の学会に参加し発表している。次年度も継続的に発表を行う。

研究授業を通じて「授業手法」の確立・実践や、生徒が活動している際の「評価」についての研究に取り組み、生徒の主体的、対話的な深い学びをよりきめ細かく実践するとともにどんな場面でどんな活動を評価していくのかを研究し、事後研究協議にて成果と課題について報告・協議した。今後も「観点別評価」に活かしていく。基礎、基本の定着については、生徒の基礎学力の定着度を定期考査や小テスト、個別指導の充実や授業の工夫・改善を通して、生徒に分かる授業を目指して実践した。

基本レベルの資格取得、就職試験、一般受験への対応については、補講・補習を夏季講習を実施し、検定試験については、日商２級等合格し、合格率を基調に乗せた。習熟度別授業については、数学・英語において展開し、生徒の基礎学力の定着を図った。

「ビジネスアイデア」について２年生生徒が、東京ユナイテッドバスケットボールチームと連携し学習にとりくみ商業高校における「ビジネスアイディア成果発表会」や「東京プランニング・ラボ」に参加し成果を上げた。

商業教育コンソーシアム東京との連携では、１年生がビジネス基礎において、大日本印刷株式会社、生命保険会社と連携し、３年生は課題研究で企業の研究において公認会計士との連携を果たし、学習発表等において大きな成果をあげた。

次年度も継続しさらに発展させる。

海外学校間交流推進校として、推進指定校募集に手を挙げ、カナダの大学との連携を計画しカナダ・バンクーバー視察の実現を果たした。次年度に向けてさらに生徒との国際交流の計画を立てる。

③ 生活指導・進路指導

全教員による組織的な生活指導の徹底を図った。日々の校門指導、校内巡回、遅刻指導、身だしなみ、マナー、頭髮指導、指定バック使用の指導、必要に応じて開催した全校集会や学年集会、あいさつの励行指導、交通安全指導の実施により、基本的な生活習慣の定着及びマナーの遵守を図った。次年度に向け、校則の見直し、通学用リュックを導入する。

特別指導件数は、ここ数年間で大幅に減少し続けているが、今年度も前年度に比べて減少した。しかし SNS 使用の関係で複数回指導を受ける生徒もいた。校内放送を活用した全校集会や学年集会を利用した生活指導の徹底、関係機関と連携したセーフティ教室の充実、学級活動や部活動を通じた生徒と教職員との信頼関係の醸成指導の徹底等、今後も引き続き、学級担任と生活指導部、各教科担当者との連携に基づく生徒指導の徹底を図る。また、学校サポートチームやスクールサポーター等との連携はさらに未然防止に務めることは当然であるが、発生した場合の対応は徹底して指導を行い、再発防止に努めていく。

こうした指導の結果、進級・卒業率は、以下のとおりである。

(単位 %))

	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度	5年度
第1学年	97.2%	89.4%	96.1%	95.1%	93.6%	92.4%	85.2%
第2学年	98.5%	96.6%	96.1%	98.4%	93.9%	91.5%	97.4%
第3学年	97.5%	99.5%	98.0%	99.1%	99.4%	97.8%	99.3%
平均	97.7%	95.1%	96.7%	97.5%	95.6%	93.9%	94.1%

1学年は学級減の中、178名にてスタートした。しかし基本的な生活習慣が身に付いていない生徒もおり20名の転退学者を出した。家庭環境を始めとして、学校生活への意欲、学習意欲の希薄さ、基本的な生活習慣が定着していない、学校での友人関係がうまく築けないなど、指導の甲斐なく進級に結び付けなかったところもある。さらなる3年間を通じた進級、卒業に向けて一層の指導、寄り添いが必要である。進級・卒業率は昨年度より少し向上した。

進路指導部と学年の連携による目標管理型の進路指導の充実を図るため、2年生において学校設定科目「ライフビジョン」によるキャリア教育、道徳教育、奉仕などの指導を行った。今年度は2年生全員のインターンシップは実施でき51社と連携し、教育活動の成果を得た。ライフビジョンは2年生のみの履修であるため、1年生ではロングホームルームの効率的な活用、課外での指導が必要であったが、今年度はオンラインを有効活用して回数不足を補うことができたことは、次年度に向けて成果である。

卒業生の進路決定数は、大学進学35名(25%)、専門学校進学45名(32.1%)、就職40名(28.6%)であり、その他20名(14.3%)であった。

全体的内訳は、進学者が約6割、就職者が約3割、その他が1割で進学傾向が強くなってきているが昨年と比較すると、変化は少ない。就職希望者は100%の内定を獲得した。

就職希望者については、歴史と伝統のある今までの繋がりからの企業を中心に木場職安の協力を得て1200社以上の求人をしていただき100%の内定率を達成することができた。

前々年度と比較するとオンラインにおける見学説明会や選考試験が減少した。従来どおりの対面を重視した取り組みに戻りつつあるので学校全体で問題を共有して指導していく必要がある。

また、大学進学については、70校以上の指定校推薦の枠から選択していく生徒が多く、専門学校も含めて大半が奨学金を借りて進学していく傾向が強い。そのために、①進学の目的を明確にする。②高校の授業をおろそかにしない。③高校時代に欠席や遅刻をしないように気をつける④適性や興味にあった学科・コースを選択する。⑤夢や憧れでなく、地道に努力することを日ごろの学校生活の中で培っていくことが強く要求されるので、いつでも親身によりそっての指導が必要である。

防災関係では、年4回の避難訓練を実施し、今年度新たな避難経路を設定し（屋上や三商ロード）、迅速な避難、「お・か・し・も」の徹底、自助・共助・公助について自覚した。今年度から地域と連携した防災訓練となり、消防署の講演会や地域住民も参加した訓練を実施し、好評を得た。

④ 特別活動・部活動

部活動においても年度当初の部活動への加入率は65.8%であり昨年度に比しては若干上昇だが定着率に課題が残る。年度当初は入部してもやめる生徒が多く、アルバイトなどに向かう生徒もいる。多くの部活動が活性化してきているところで、より定着率を高め、学校への帰属意識を高めるための工夫をしていきたい。3学期において2年生とが『子供を笑顔にするプロジェクト』で劇団四季との交流、演劇鑑賞を実施した。

⑤ 計画的な広報・募集活動の実施

新たな取り組みとして、塾訪問やマナー講座を実施し目標どおりに実現した。4月に新入生と在校生全員に受検塾についてアンケートを実施し、全150校の塾訪問を計画した。住所リストを作成し、前年度の学校案内を5月に郵送し、7月から8月にかけて新しい学校案内を管理職や教員が合計167件（新規開拓を含む）の塾を訪問した。年度初めに募集対策について教員に周知した結果、募集対策に対して機運が高まり、目標訪問数達成につなげた。今年度は昨年よりもさらに出前授業マナー講座の数を39校に増やし、商業教員内容をPRした。組織的に区内や区外の中学校に出向き、面接対策マナー講座を講演し、専門高校の内容紹介や本校の教育活動紹介を行った。中学生のみならず、中学3年生の保護者も対象にして受講させる中学校もあり、中学校からは大好評を得た。

その結果、入選中進対倍率は1.29倍、推薦応募倍率1.63倍、入選1次応募倍率1.42倍と近來まれにみる高倍率となった。推薦入試では各面接グループにおいて80%の生徒が『出前授業がきっかけとなり、本校を希望した』、と回答している。その中で過去において本校の入学生がいない中学校も含め、今年度の入学者選抜で各中学校の複数名の中学生が受検し、合格することとなった。これは普及活動の成果である。

また今年度はホームページを270回以上更新し、ツイッターYouTubeを130回以上発信し、本校の教育情報を提供した。こちらも多くの視聴者が閲覧しており、昨年度の閲覧数を今年度はさらに上回った。

体験入部はソフトボール部、野球部、男女バスケットボール部、ダンス部その他運動部中心に案内し、実施した。中学生の参加者があり、受験へつなぐことができ募集対策の成果がでた。地域の中学生を招致し交流ソフトボール大会を実現した。

⑥ 保健指導

養護教諭を中心に自立的な生活管理と健康管理の指導を推進した。また、スクールカウンセラーを活用した相談機能を充実させ、1年生の全員面接のほか、延べ175名の生徒が個別にカウンセリングを利用した。今年度から緊急を要する場合には授業中にも対応できるようにした。特別指導対象の生徒にもカウンセリングを行い、積極的

な活用を行った。教員との情報交換・助言等による連携も確立している。

また、特別支援教育の強化を図るために、心理士を呼び教員対象の特別支援教育講演会を実施した。教員の特別支援教育は発達障害に関する意識が高まり、生徒指導が変容した。外部の関連機関へのつなぎなどの連携もスムーズになり、次年度に向けてさらに活性化していきたい。いじめの未然防止・早期発見・早期解決に対して、教職員、スクールカウンセラーが連携していく。

⑦ 図書・視聴覚指導

今年度、会計年度任用職員の図書専門支援員が配置され、毎月の図書だよりを全校生徒や教職員に配布し、本校のHPに掲載し、学校説明会の施設案内では図書室案内を取り入れ、募集対策活動に貢献した。図書紹介も実施した結果、保存する2万9千冊の蔵書の借用数が増加した。さらに授業の際の図書室活用を促進した結果、図書室利用数が増加した。今後もさらに促進するとともに、図書専門支援員と図書館担当の司書教諭が連携し、協力して運営を行い、円滑な運営ができた。

今後もすべての教科・科目での生徒の読書活動・言語活動、図書室利用の推進が課題である。

ビブリオバトルは国語科が積極的にオーディションを実施し参加した。

⑧ 校舎の改築及び改修

恵まれた施設の活用により、全ての教育活動の活性化につながっている。

(2) 重点目標への取組と自己評価

① 学習指導

主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、アクティブラーニングの推進を図り、参加型・体験型・探究型・発表型の授業を通じて、授業の工夫・改善を励行した。どんな場面で、どう評価するのか。生徒の状況把握とともに、生徒の活動を正に評価していくことが肝要である。評価を意識し、ルーブリック評価などの手法を用いた授業を実践した。今年度は若手教員研修の研究授業を15回実施した。研究授業の事後協議も15回実施した。さらに研鑽を重ね、絶え間なく授業力向上に努めていきたい。

② 生活指導

毎朝の遅刻指導や服装・頭髪等の身だしなみ指導を学校全体の生活指導として継続した結果、基本的生活習慣やマナーを向上させることができた。

さらに、自転車の交通安全指導に重点を置き、ヘルメット着用指導など毎朝の登校時の指導に加えた。課題として、生徒のヘルメット着用率を高めることである。

計画通りにセーフティ教室を開催した。安全教育の推進を今後とも進めていく。

③ 進路指導

進学・就職に必要な資格取得については、9月の全商情報処理検定試験、11月の全商ビジネス文書検定試験、12月の全商英語検定試験、1月の全商簿記検定試験、全商情報処理検定試験、2月の全商商業経済検定を目指して商業科と英語科による組織的な補習体制を組み、検定試験の合格率向上を目指した。昨年度に比べての検定合格率向上は成果である。また、各クラスには学級担任とは別に進路副担任を置いていたが、進路指導部での就職者担当、進学者担当に分けた指導体制は軌道にのっている。また本校独自の手帳を活用し、全校集会・講演会・学習計画・日記として活用させ、生徒自ら計画を立てさせることと必ずメモを取ることを習慣づけさせた。次年度以降も継続して活用させる。

④ 特別活動・部活動

特別指導の実施について、指導日数、指導内容、指導体制について検討・協議した結果、指導日数の変更を決定した。

特別活動の充実を通して、生徒一人ひとりの存在感と達成感や、学校への帰属意識、クラスの連帯感を高めることにより、生徒の中途退学の防止に努めた。体育祭、文化祭は感染症対策に配慮し、規模を縮小して実施できた。部活動も活動が制限される中、オンラインの活用を通じた指導をした部活もある。また、年度当初には63.8%あった部活動加入率であるが、昨年より若干上昇だが定着率が課題である。学校への帰属意識を高め、学校生活を充実させるためにも部活動の活性化は不可欠である。

⑤ 保健指導

各クラスの保健委員だけでなく、全校体制の校内美化に全教職員で日々取り組んだ。

これにより清潔で衛生的な学習環境を維持することができた。

⑥ 研究・研修

「アレルギーとエピペン」や「特別支援教育研修会」の校内研修を2学期に実施した。デジタルサポーターを活用し月に9回、年に98回研修を実施した。若手教員のほか、60歳以上のベテラン教員の参加が多くみられた。

体罰の根絶に向けた取組として、年2回の研修会を実施、他に適宜注意喚起を行うなど教員の意識に訴えかけた。また、生徒へのアンケートでは、必要に応じて聞き取りを行い、教員向けのアンケートでも全員に聞き取りを行い、実態把握に努めた結果、体罰の発生はゼロであった。

⑦ 広報・募集活動

今年度は東京都教育委員会による「都立に入る」の紹介ビデオ作製を全校あげて1学期に集中して取り組んだ。全校生徒や教員が撮影に協力した。学校PRビデオを活用し、三商生の日を映し出した。文字では表せない、表情・明るい笑顔・やる気・本気度・雰囲気等を伝えることができる内容であり、学校説明会、体験入学時において、中学生・保護者に対して本校を知ってもらう資料とした。入選中進対倍率は1.29倍、推薦応募倍率1.63倍、入選1次応募倍率1.42倍と近來まれにみる高倍率となった。推薦入試では各面接グループにおいて80%の生徒が『出前授業がきっかけとなり、本校を希望した』、と回答している。その中で過去において本校の入学生がいない中学校も含め、今年度の入学者選抜で各中学校の複数名の中学生が受検し、合格することとなった。これは普及活動の成果である。

また今年度はホームページを270回以上更新し、ツイッターYouTubeを130回以上発信し、本校の教育情報を提供した。こちらも多くの視聴者が閲覧しており、昨年度の閲覧数を今年度はさらに上回った。

(3) 数値目標

① 学校運営

	目標数値	達成数値
ア 研究授業	10回以上	← 15回 達成
イ 中途退学率	2%以内	← 1.78%

② 学習指導

ア 授業満足度	70%以上	← 80.2%
イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	全教科	← 全教科

③ 生活指導

ア 遅刻生徒	2%以下	← 3.3%
イ 特別指導対象件数	5件以下	← 2件(2人)

④ 進路指導

ア 進路指導満足度	70%以上	← 89.3%
イ 進路決定率	100%	← 100%

⑤ 特別活動・部活動

ア 行事満足度	70%以上	← 85.6%
イ 部活動加入率	90%以上	← 63.8%

⑥ 広報・募集活動

ア 小中学生との部活動交流・体験入部	5回以上	← 6回
イ ホームページ更新	50回以上	← 270回
ウ 学校広報誌「SUN商タイムス」	3回以上	← 2回
エ 授業公開、体験入学、学校説明会	各3回以上	← 39回
オ 応募倍率	推薦2.0倍以上	学力選抜1.1倍以上
	← 推薦1.63倍	学力選抜1.42倍

⑦ 資格取得

ア 1年次簿記検定3級以上合格率	80%以上	← 89%
イ 1年次情報処理検定3級以上合格率	80%以上	← 86%
ウ 1年次ビジネス文書検定3級以上合格率	80%以上	← 90%
エ 1年次英語検定3級以上合格率	50%以上	← 67%

2 次年度以降の課題と対応策

以下のような取組を通じて、生徒の基礎学力を向上するとともに、充実した商業科目の学習による資格取得を推進し、生徒の進路実現100%を目指す学校を構築する。

(1) 主体的・対話的で深い学びを継続した取組

主体的・対話的で深い学びを継続し、生徒の学力を向上させ、定着させていく。「読む力」「聞く力」「話す力」「探究する力」「課題を発見し解決する力」「発表する力」の向上を図る。今年度の課題を整理し、解決に向けた取組を行う。

- ① オンラインを活用した指導方法に関する校内研修を実施する。
- ② 先進的に取り組んでいる他校の実践事例発表会に参加する。
- ③ 「アクティブ・ラーニング」の「手法」を活用した実践を行い、全教科での指導の充実を図る。
- ④ 観点別評価の確立と実践。

(2) 地域と連携した学校活動の取組

地域連携推進委員会のメンバーを中心に、年間活動計画による早めの役割分担及び進行管理を行う。

(3) 基本的生活習慣及び生活規律の確立

① 生活指導体制の再構築

- ・生活指導部を中心に、全教職員が共通認識をもって工夫ある生活指導を徹底する。
- ・生徒会組織を活性化し、生徒による自治意識を涵養する。
- ・担任による生徒や保護者への面談を充実させ、カウンセリングマインドをもってきめ細かい丁寧な指導を実施する。特に、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、養護教諭、学年主任等を中心に校内の委員会を定期的に開催し、長期欠席や問題行動等が懸念される生徒を早期発見して指導にあたる。
- ・学校設定科目「ライフビジョン」における計画的なキャリア教育に基づき、生徒の進路意識を2年にわたり醸成する。

② 生活規律の確立

- ・全教職員が共通認識をもって頭髪・身だしなみの指導を徹底する。
- ・交通安全指導を継続し、通学時の自転車事故をゼロにする。
- ・遅刻の防止を推進する。

(4) 資格取得の奨励と部活動の活性化

① 系統的な指導計画の見直しと再構築

- ・3年間を見通した資格取得の指導計画を構築する。
- ・資格取得に向けた組織的・意図的・計画的な補習・補講体制を構築する。
- ・進路指導計画に基づく、生徒の資格取得計画を構築する。

② 部活動の活性化

- ・全員加入の奨励や、体験入部の推進により部員数を確保する。
- ・継続安定した活動をおこない、部活動参加の定着率を高め、部活動を通じて学校への帰属意識を醸成する。

(5) 進路指導の改善・充実

① 意図的、計画的な進路指導体制の構築

- ・学校設定科目「ライフビジョン」の指導の内容を充実させるとともに、指導方法の改善や更なる教材開発を推進する。
- ・近隣企業や門前仲町商店街、江東区役所、木場ハローワーク、東京商工会議所と連携してインターンシップを推進し、生徒に望ましい職業観・勤労観を培う。
- ② 本校独自の手帳を全校集会・講演会・学年集会・試験勉強の計画・日記として活用させ、生徒自ら計画を立てる。絶えずメモを取る習慣をつけさせる。
- ③ 体験的な学習と関連させたキャリア教育の推進
 - ・学校設定科目「ライフビジョン」にて教科「人間と社会」、奉仕と道徳、キャリア教育を実践する。
 - ・2年生のインターンシップを契機に、進路意識を高める。
 - ・2年生のビジネスアイデアを通じて実践的なビジネス活動についての理解を深めさせ、フィールドワークを実践する。
 - ・3年生の「総合実践」や「課題研究」、「広告と販売促進」「マーケティング」を通じて、実践的なビジネス活動についての理解を深めさせ、フィールドワークを実践する。
 - ・1年生では「東京のビジネス」において、調べ学習、研究、発表などフィールドワーク実施に向けた学習を行う。

(6) 学校広報活動の改善・充実

① 組織的な学校広報活動の充実

- ・マナー講座、出前授業については前年度の3学期より中学校へ案内を発信しさらに訪問数を増やし展開する。
- ・分掌・学年の枠を超えて全教職員を横断的に組織して広報・募集活動にあたる。
- ・Web ページの更なる改善・充実を図り、塾に関する生徒へのアンケートや学校案内を塾や中学校へ郵送するなど、最新の情報を中学生・保護者に提供する。

② 地域交流活動を通じた本校の教育活動アピール

- ・地域企業・大学などを通じて地域交流活動を励行し、本校の教育活動の成果を積極的にアピールする。
- ・従来から行っている活動を継続するとともに、今年度から始めた事業の継続・充実させていく。さらに商業教育内容を中学校へ広める。
- ・地域との活動を教育課程に位置づけ、生徒に身につけさせたい能力を明確にして、取り組んでいく。